

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600114		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター防府 ニチイのほほえみ		
所在地	山口県防府市敷山町14-1		
自己評価作成日	平成 24年 8月 31日	評価結果市町受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほほえみ防府の理念の基 ・ほほえみ(笑顔)を絶やさずケアをする。 ・穏やかに過ごせる環境を提供する。 ・地域と協力し、安心・安全を提供する。ことを信条として入居者おひとりおひとりの心身の状態と個々の生活歴を尊重した馴染みの生活環境作りに配慮し、家庭的な雰囲気の下スタッフと共に有する能力が生かせるよう、又その能力に応じて役割を担ってもらい日常生活が継続できるよう支援いたします。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の「認知症対応普及啓発事業」を受託され、地域の人々に向けて年2回、認知症や介護に関する出前講座を開催しておられ、相談にのったりアドバイスをされるなど、事業所の取り組みを地域貢献につなげておられます。身体拘束をしないケアを実践されるため、事業所独自のマニュアルを作られ、5月には指定基準など基本的なことについて、9月にはケアの実践の中での拘束について、内部研修を実施しておられ、全ての職員が正しく理解して抑制や拘束のないケアに取り組まれています。職員同士のチームワークが良く、お互いに意見を出し合ってケアの内容を検討し、困ったときには協力しあっておられます。職員それぞれがより良いサービスを提供しようと、利用者のことを考え、同じ目線で同じ方向を向いてケアに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員へのオリエンテーション時に事業所の担うべき役割、地域への関わりについても触れながら、事業所理念の説明を行う	事業所名を頭文字に組み込んだ独自の理念を作り、事業所内に掲示し、「地域と協力し、安心・安全を提供する」ことを信条として、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域支援事業の一環として、地区民生委員の依頼に応じて介護に関する知識普及・転倒予防のための体操指導を出張講座にて開催したり、地域からのご案内で盆踊りの参加や自治会での清掃活動に参加している	自治会に加入し、職員は清掃活動に参加している。地域の盆踊りへの参加や、事業所主催のフリーマーケットに参加した地域の人と交流している。ボランティア(歌、踊り、銭太鼓、大正琴など)の訪問や併設施設(小規模多機能型居宅介護)の利用者との交流、高校生の見学、ホームヘルパー2級の実習生の受け入れなどしている。市の「認知症対応普及啓発事業」を受託して、地域で出前講座を行うなど地域の一員として取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に関する知識の普及を出張講座にて図っている			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自社の自己評価において、要改善と指導された子馬無はただちに改善に取り組み、再評価を受けた際に改善が認められるよう努力している。スタッフへは会議などを通じて伝達している	事業所の拠点会議で評価の意義について説明し、項目に沿って職員から聞き取りをして管理者がまとめている。外部評価結果について拠点会議で話し合い、出来るところから改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(偶数月)に開催している。利用者ご家族、地域自治会の方、行政の方や一般の方、公共機関(消防署)の方へ参加要請して活動報告及び意見交換を行い、スタッフへは内容が把握しやすいよう報告書をファイリングしている。	新たに地域メンバー1名を加え、併設の小規模多機能居宅介護と一緒に2ヶ月に1回開催している。活動報告、状況報告などをして意見交換している。会議の参加者に事業所のクリスマス会に参加してもらったり、ミニ研修会を実施している。消防署からの参加があり防災について検討している。そこでの意見を運営に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上の疑問は市の担当者に随時質問し、指導を仰いでいる。	運営推進会議の他、電話や出向いて情報交換するなど日頃から連絡を取っている。地域包括支援センターとは困難事例について相談し助言を得ている。市の「認知症対応普及啓発事業」を受託して実施するなど、市との協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待の一環として「身体拘束」に関する拠点研修を実施し、スタッフの認識を促すように努めている。(新入社員への説明は入社時に実施)身体拘束の必要のある利用者に関しては身体拘束委員会を開き「拘束」の是非を検討している。	事業所独自のマニュアルを作り、年2回内部研修を行って全職員が身体拘束について正しく理解して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拠点内研修を年2回(5月・9月)実施 新入社員のオリエンテーション時には説明項目としている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している入居者がいるので業務の中で理解している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学及び事前説明を実施している。重要事項を説明し、納得の上契約の取り交わしを行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書第17条に明記し、契約時に口頭説明を行っている。また定期的に実施している運営推進会議の場での意見交換・要望などを聞いている	運営推進会議時、家族会(年4回開催しほとんどの家族が参加)、面会時、年1回の家族アンケートなどで家族から意見や要望を聞いている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月拠点会議を実施しており、スタッフの共通の意見などを聞くように努めている。また、管理者に直接意見の言える環境作りを意識している	拠点会議で職員の意見や提案を聞く機会がある他、日常業務の中で管理者が職員の意見を聞いたり、ケアや医療的なことの相談に助言するなど、意見を業務に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの面談を随時実施し、スタッフ個々の意見の吸い上げの場としている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内に関しては、随時情報を提供し、参加希望があれば、シフト調整など行い参加しやすい環境作りをする	外部研修は職員に情報を伝えている。法人研修は採用時やテクニカル研修など段階に応じて年3～4回受講の機会がある。内部研修は年間計画があり、毎月の拠点会議の後に全職員が参加して実施し、欠席者は資料で自主研修をしている。山口県宅老所・グループホーム協会のブロック研修に参加している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム連絡協議会に参加し、総会、ブロック研修などに参加。研修会の立案・計画を行う		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にご自宅や利用施設に赴いて、当施設の見学を計画実施している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や来所時に面接し、本人や家族の要望を聞き取っている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーとの連携やアセスメントを実施している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を大切にし、行える作業は一緒にするなどのサポートをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	本人と家族それぞれの意見、要望を聴き関 係調整の役割を果たす		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の行事や誕生会に家族の方に参加い ただき、冠婚葬祭へも出席できる様支援して いる	家族の面会や知人、友人の来訪、手紙や電 話による関係継続の支援をしている。家族の 協力を得て外食や外出などの支援をしてい る。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、リビングでの 席に配慮したり、一緒に活動する機会を作っ ている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院発生時はお見舞いに出かけたり、必要 に応じて相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中で、入居者の言動の中か ら希望や意向を汲み取るよう努力している	センター方式のシートを活用する他、日々の ふれあいの中で聞き取ったことを申し送りノ ートや介護記録に記録して共有し、思いや意向 の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人や家族・知人から話を聴きセンター方 式によるアセスメントにて分析している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	穏やかに過ごせ、安心できる居場所作りに努めている。その中で本人の力が発揮できるようなケアを行っている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の拠点会議で担当者会議を行い、支援目標の検討やケアの統一などスタッフ間での情報共有を図っている	月1回の拠点会議でケアカンファレンスを行い、利用者を担当する職員や本人、家族、主治医の意見等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。日常生活支援シートに6ヶ月ごとに担当者が記録しモニタリングを実施している。更新期間に合わせてや利用者の状態変化に応じて計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常支援シートを作成しスタッフ間での共通の認識でケアにあたり問題点は申し送りや会議で話し合っている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療・訪問看護・訪問マッサージ・出張散髪を利用したり、地域ボランティアも活用している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて権利擁護事業や後見人制度を利用し入居者の生活を支えている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による往診は2週間ごとに実施。かかりつけ医や専門医の受診も支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関への受診支援をしている。協力医療機関から2週間に1回の往診がある。受診には職員が同行し、かかりつけ医や専門医へ情報提供し、家族に結果を伝えている。他科の受診は家族の協力を得て支援するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	周1回訪問看護師が来所した際健康状態に関する情報提供を行い健康管理に努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院施設へは介護サマリーや退所時のサマリーを提供し情報交換を行っている。入院中は主治医、病棟師長、SWと相談を密にして退院後の生活に支障のないように対応している		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の処遇を家族と話し合い、提携医や訪問看護師の協力体制を整えるなど相互の調整を図るよう配慮している	重度化した場合の事業所の指針があり、事業所で出来る対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度、主治医や協力医、訪問看護師、家族、職員で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒・行方不明に関するマニュアルは常時閲覧可能な場所に置いている。研修のテーマとあひてスタッフ間で検討している。転倒・誤薬発生時は再発防止のための事故報告をし、申し送り、会議などで実施している	事故、トラブル報告書やヒヤリはっと報告書に記録し、管理者が対応策を申し送りで全職員に伝え、共有して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。救命救急法の研修を12月に予定しているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練までには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選任し、避難訓練を実施。訓練時は地域への周知や事後報告(運営推進会議など)を実施している。	消防署の協力を得て、併設施設(小規模多機能居宅介護)と一緒に年2回(昼、夜想定)の火災時避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議で訓練の参加を呼びかけているが、災害時の地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	拠点内研修でプライバシー保護や接遇について学び、日々の声かけや対応に留意している	法人の接遇研修や拠点会議で言葉かけや対応について学び、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを確保することを徹底している。管理者が日々の業務の中で常に指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を推測したり、選択肢を示し、自己決定しやすいよう助言を行っている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの食事・睡眠・排泄の時間・生活習慣の把握に努め現有能力を発揮できる場面を提供できるよう支援している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容(整髪・化粧)などこれまでの習慣が維持できるよう環境を整える		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に決めたり、旬の食材を取り入れた食事作りを心がけている。下ごしらえ、盛り付け、食後の片付けは、利用者と一緒にやっている	三食とも事業所で食事づくりをしている。定期的に管理栄養士の指導を受け、利用者の好みを取り入れた献立で旬の食材を利用した栄養バランスのとれた食事を提供している。利用者は下ごしらえや盛り付け、食器拭きなどを職員と一緒にしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の指導の下、1500kcal/日で提供し、水分摂取量は個々にチェックしている。利用者の嗜好にも配慮している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りや介助で口腔ケア(義歯の管理)を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけ、本人の意思表示と能力を考慮し介助を行っている。排泄の感覚を把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量や内服薬の腸への影響を把握し、スタッフ間で情報を共有、調整を図っている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は11時から16時の間で行っている。入居者の希望や体調を確認し個浴で介助している	入浴は毎日14時から16時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて週3回程度、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には、職員が交代したり、日時を変えたり、声かけに工夫するなどして入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態、体調を把握し臥床を促したり、居心地のよい場所で過ごせるよう配慮している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに保管し処方薬一覧表でも確認できるようにしている。薬剤師による薬の管理を行っている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことを生活の中で行える場面作りを行うと共に、家事への参加を促している	テレビ視聴、折り紙、童話の読み聞かせ、体操、季節ごとの行事、ボランティアによる大正琴、歌、銭太鼓を交流しながら楽しみ、おやつ作り、食器拭き、洗濯物たたみ、おしぼりたたみなど活躍できる場面を作って、一人ひとりが張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は計画を立てて実施している。家族との外出は積極的に行っている	地域の盆踊りの見学、花見、紅葉狩り、家族の協力を得ての夕食、外出、散歩など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は拠点の金庫に保管、個別の金銭出納帳にて管理している。買い物に出かける際にはお金を使う機会を作っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやりとりは自由に行える。手紙の投函はスタッフが代行。誕生日や敬老のプレゼントの宅配があった場合は、お礼の電話をかける支援をしている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備のため定時、随時の掃除を実施。換気や採光にも配慮している。季節に合わせた壁飾りの貼り絵など利用者と共に作成している	共用空間は明るく、リビングには食卓、テレビ、椅子などが配置してある。壁には行事の写真や季節に合わせた作品を飾って季節感が感じられ、台所から調理の音や匂いがして生活感が感じられる。温度、湿度、換気、音などに配慮し、利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は40.87㎡と狭いため独りになれる空間の確保は難しいため、居室で過ごされるときは、努めて訪室している。入居者それぞれのお気に入りの場所があるが、人間関係によっては席を変えるなど配慮している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れたタンスや小物入れなど持ち込んでいただき、できるだけ早期に環境に慣れることができるよう配慮している	テレビ、整理ダンス、椅子、衣服、生活用品などを持ち込み、家族の写真や自分の作品などを飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、廊下、フロア、脱衣所、浴室には手すりを設置し、日常生活動作が出来るだけ自力で行えるようにしている		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 NC防府 ニチイのほほえみ

作成日： 平成 25年 3月 15日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急処置や、緊急時の初期対応の訓練が実施できていない。	救命救急法の研修会の参加と自拠点内での初期対応や急変時、感染症発生時の対応を構築する	やわらぎ(同一敷地内施設)でのターミナルケア及び感染症発生時の対応に関する説明書を用いてスタッフに周知を図る	0.5ヵ月
2	36	防災訓練の地域住民の参加を得ることが難しい。	非常災害時に近隣住民の方の応援をいただけるよう働きかける	地域行事(季節の清掃作業)の参加をする 所属する町内会とは立地的に離れているため、より施設に近接した町内会の自治会長・民生委員・地域住民の方にアプローチ(運営推進会議へのお誘いや施設見学会の実施など)し、施設を知ってもらうことから始める	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。